

坪井3連覇&4度目王者

GT500

史上初

最多タイ

自動車のス
ーパーGT最終第8
戦の決勝が2日、栃木・モビリ
ティリゾートもてぎで行われ、GT5
00クラス予選2位の1号車au TOM'S
GR Supra(坪井翔)が、GT300クラ
スは、LEON PYRAMID A
MG(蒲生尚弥/菅波冬悟)が6位に
入り総合優勝となった。チームにつ
いて7年ぶりのタイトルとなった。

「1周目が勝負」
狙い通りだった。坪井は「1周目が
勝負だった。2位のまま第1コーナー
に飛び込んだが相手の走りをしっかり
つかんで焦らない。アウトから第3
コーナーに入ると38号車をよるえ抜き
が、タイヤ交換をしないチームを
想定してリードをあげ、山下にバトン
をつないだ。計算通りのレースだった。

au TOM'S GR Supra優勝締め!!
「抜くのが目標」
4度目の王者は昨年引退したロニー・
クインタレリと並び最多になる
「や」と並べた。抜くのが次の目標で
す。坪井は4連覇を見据えていた。



◆500クラス第8戦成績◆			
順位	マシン	(ドライバー)	タイム(2位以下はタイム差)
1	au TOM'S GR Supra	(坪井翔、山下健太)	1時間51分55秒545
2	MOTUL AUTEC Z	(千代勝正、高星明誠)	1秒269
3	STANLEY CIVIC TYPE R-GT	(山本尚貴、牧野任祐)	26秒945
4	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	(関口雄飛、フェネストラ)	27秒367
5	Deloitte TOM'S GR Supra	(佐原右京、アレシ)	39秒116
6	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT #8	(野尻智紀、松下信治)	50秒138
7	Keep'er CERUMO GR Supra	(石浦宏明、大瀧都史樹)	1分1秒521
8	ARTA MUGEN CIVIC TYPE R-GT #18	(大津弘樹、三宅孝訓)	1分1秒734
9	Niterra MOTUL Z	(佐々木大樹、名取鉄平)	1分5秒968
10	リアライスコボレーション ADVAN Z	(松田次生、阪口晴南)	1分11秒220
11	WedsSport ADVAN GR Supra	(国本雄資、大草りき)	1分15秒608
12	Modulo CIVIC TYPE R-GT	(伊沢拓也、小出峻)	1分19秒565
13	Astemo CIVIC TYPE R-GT	(塚越広太、福住仁樹)	1分27秒339
14	ENEOS X PRIME GR Supra	(大崎和也、バケット)	1分58秒537
15	TRS IMPUL with SDG Z	(平峰一貴、バケット)	



GT500クラス総合優勝を果たした1号車(撮影・宮地輝)

山下健太(やまた・けんた) 1995年生まれ。8月3日、千代田市生まれ。05年からカートに本格参戦。14年マカオGPで優勝。15年からスーパーGT参戦。18年全日本F3000クラシックで優勝。19年、24年、25年の3度、フォーミュラでは16年全日本F3000総合優勝。17年にスーパーフォーミュラに転向し、今季は11位。東海大学工学部卒。175センチ、67キログラム。2025年(平)7月21日、横浜市生まれ。歳でカートを始め、18年に全日本F3で初の総合優勝。19年にスーパーフォーミュラに昇格し、昨年初の王者に今季も2勝1トップに立っている。スーパーGTには17年から300クラに出場し、19年からGT500クラスにフル参戦。21年に初の総合優勝、23年から3連覇。夫人の奇縁愛もドライバーバツ。駿河台大経済経営学部卒。171センチ、61キログラム。

◆最近5年の総合優勝ドライバー◆

GT500		
年	選手名	(車名)
2021	山本尚貴、牧野任祐	(ホンダNSX-GT)
2022	関口雄飛、坪井翔	(トヨタGRスーパー)
2023	平峰一貴、バケット	(日産GT500)
2024	坪井翔、宮田利朋	(トヨタGRスーパー)
2025	坪井翔、山下健太	(トヨタGRスーパー)

GT300		
年	選手名	(車名)
2021	藤波清斗、オリベラ	(日産GT-R)
2022	井口卓人、山内英輝	(スバルBRZ)
2023	藤波清斗、オリベラ	(日産GT-R)
2024	吉田広樹、川合孝汰	(トヨタGRスーパー)
2025	小暮卓史、元嶋佑弥	(ランボルギーニGT3)

蒲生&菅波組6位で総合V



必然の7年ぶり

チーム7年ぶりの総合優勝は必然だったのかもしれない。GT300クラスを制した菅波はこの日、30歳の誕生日だった。7年前、王者を決めるハンドルを握っていたのはチームメートの蒲生。やはりその日が誕生日だった。決められた

ら「もってるかもしれない」と思いながら臨んだ決勝。蒲生は「持ってたな」と菅波を出迎えた。優勝しても他車の結果次第では王者になれる難しいレースだった。蒲生は「展開も分らず、1周1周に集中して走った」と言う。6位でゴールしたが、総合優勝を決めたのか分からなかったとい

◆最近5年の総合優勝ドライバー◆

GT300		
年	選手名	(車名)
2021	藤波清斗、オリベラ	(日産GT-R)
2022	井口卓人、山内英輝	(スバルBRZ)
2023	藤波清斗、オリベラ	(日産GT-R)
2024	吉田広樹、川合孝汰	(トヨタGRスーパー)
2025	小暮卓史、元嶋佑弥	(ランボルギーニGT3)

マッハ号が初勝利

GT300 最終戦を制したのはアニメの名車をモデルにしたマッハ車検 エアスター MC86マッハ号だった。チーム初勝利に

◆300クラス第8戦成績◆(10位まで)

順位	マシン	(ドライバー)	タイム(2位以下はタイム差)
1	マッハ車検 エアスター MC86 マッハ号	(塩津佑介、木村信輔)	1時間52分23秒835
2	SUBARU BRZ R&D SPORT	(井口卓人、山内英輝)	9秒217
3	seven×seven PORSCHE GT3R	(藤波清斗、キング)	9秒710
4	リアライスコバレーション GT-R	(オリベラ、平手晃平)	9秒978
5	Green Brave GR Supra GT	(吉田広樹、野中誠太)	12秒075
6	LEON PYRAMID AMG	(蒲生尚弥、菅波冬悟)	26秒066
7	CARGUY Ferrari 296 GT3	(オサリバン、小林利徳)	33秒303
8	クッドスマイル 初音ミク AMG	(谷口信輝、片岡龍也)	1周
9	HYPER WATER RACING GR86 GT	(堤優威、平良輝)	1周
10	UPGARAGE AMG GT3	(小林崇志、野村勇斗)	1周

松田、伊沢らGT降る

〇〇長くGT500クラスで活躍したドライバーが相次いでシートを降りることになった。14、15年と連覇した松田次生は前年の全日本GT選手権から参戦しており「203戦やってきました。25勝などの記録はみなさんのおかげです」と感謝した。通算7勝の伊沢拓也は「長い間、応援ありがとうございました。山本選手、これからのホンダをよろしく」と話し、後輩の山本尚貴は両目をぬぐった。

GT300 Class Champions
No.65 LEON PYRAMID AMG
蒲生 尚弥/菅波 冬悟

GT500 Class Champions
No.1 au TOM'S GR Supra
坪井 翔/山下 健太

2026年SUPER GT 開催スケジュール(予定)					
第1戦	4月11日・12日	岡山国際サーキット	第5戦	8月22日・23日	鈴鹿サーキット
第2戦	5月3日・4日	富士スピードウェイ	第6戦	9月19日・20日	スポーツランドSUGO
第3戦	6月19日・20日	セパン国際サーキット	第7戦	10月17日・18日	オートポリス
第4戦	8月1日・2日	富士スピードウェイ	第8戦	11月7日・8日	モビリティリゾートもてぎ

応援ありがとうございました。
2026年もよろしくお願いいたします。